

「**NASSIM**」

製作：ナシーム・スレイマンプール × ブッシュシアター

作・出演：ナシーム・スレイマンプール

演出：オマール・エリアン

美術：ライス・ジャーマン

音響デザイン：ジェームス・スワードロ

照明デザイン：ラジーヴ・パターニ

プロダクションマネージャー：マイケル・アジェル

ドラマトウルク：カロリーナ・オルテガ、スチュワート・プリングル

ナシーム・スレイマンプール

《東京公演》

出演：

11/09（Fri）19:30 境 宣之（ナイツ）

11/10（Sat）14:00 丸尾丸一郎（劇団鹿殺し）

11/11（Sun）14:00 ドミニク・チェン

18:00 森山未來

ナシーム・スレイマンプール

技術監督：寅川英司

舞台監督：坂野早織

演出部：福澤汐莉

小道具コーディネート：小山ひかり

照明コーディネート：株式会社ファクター）

音響コーディネート：相川 晶（有限会社サウンドウィーズ）

映像コーディネート：松澤延拓

テクニカル通訳：山田規古

通訳：シュレスタ良子

翻訳：水谷ハセ

翻訳協力：クリス・グレゴリー

宣伝美術：横山 雄

記録写真・記録映像：藤川琢史、宮澤 響（Alloposidae）

ナシーム・スレイマンプール

制作：荒川真由子、新井稚菜（フェスティバルトーキョー）

インターン：円城寺すみれ、小堀詠美、山里真紀子

ナシーム・スレイマンプール

協力：マセキ芸能社、オフィス鹿

ナシーム・スレイマンプール

主催：フェスティバルトーキョー

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

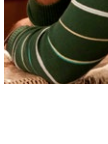
ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール



劇作家・パフォーマー

ナシーム・スレイマンプール

1981年イラン・テヘラン生まれ。兵役拒否のため、一時出国を禁じられた経験を持ち、代表作の『白いウサギ、赤いウサギ』では、自身は国内にいながらも、作品に世界を旅させるスタイルを生み出した。同作は、これまでに25の異なる言語に翻訳され、1000回以上の上演を数え、数々の賞も受賞している。その他の作品に『ブラインド・ハムレット』（2013）、『ブランク』（2015）など。現在は、ドイツ・ベルリン在住。

「**NASSIM**」

A Nassim Soleimanpour and Bush Theatre Production

Written and Performed by Nassim Soleimanpour

Directed by Omar Elerian

Designer: Rhys Jarman

Sound Designer: James Swadlow

Lighting Designer: Rajiv Pattani

Production Manager: Michael Ager

Script Editors: Carolina Ortega, Stewart Pringle

ナシーム・スレイマンプール

Tokyo Production

Cast:

11/9（Fri）19:30 Nobuyuki Hanawa（Knights）

11/10（Sat）14:00 Maruichiro Maruo（Gekidan Shika564）

11/11（Sun）14:00 Dominique Chen / 18:00 Mirai Moriyama

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナシーム・スレイマンプール

ナ

対話が終わった時代に、 長いテーブルに共につこうとすること

關 智子（演劇研究者、批評家、早稲田大学他非常勤講師）

プロデューサーに招かれ、1人の俳優が舞台上上がる。やや緊張した面持ち。客席から拍手が上がると、彼あるいは彼女はぎこちなく微笑んでお辞儀をする。そして渡された封筒を開けて台本を取り出し、そっと表紙をめくる。客席をもう一度見渡して、すっと息を吸い込んだ。静まり返った劇場によく通る声が響く。「さて、私はたった今、封筒を開けました。読み始めただけ、これから何が起こるのかまったくわかりません」…^{*1}

スレイマンブールのデビュー作『白いウサギ、赤いウサギ』（*White Rabbit, Red Rabbit*, 2011年、以下『ウサギ』）はこのようにして始まる。作品について何も知らず、事前の稽古もしていない俳優が、舞台上で手渡された台本を初見で読み上げるのである。執筆当時、兵役を拒否したために国からパスポートが発行されず国外へ出られなかった作者は、自らの置かれた状況を逆手に取った。自分は出られずとも、作品は外へ出られる。俳優や観客の反応が綿密に計算されたこの作品は、演出がならず事前の稽古がなくとも上手くいくように、あるいは上手いかなかったとしてもいずれも想定内であるかのように巧みに構築されている。まるで作者の脳内にある劇場に座っているような、奇妙な時空間へと観客は誘われる。

続く『ブラインド・ハムレット』（*Blind Hamlet*, 2013年）と『空白』（*BLANK*, 2015年）でも、スレイマンブールは演劇から様々な要素をなくしている。彼は要素の引き算をしながら極めて演劇的な瞬間を立ち上げることで、演劇の核にある力をラディカルに暴いているのである。

『ナシーム』（*NASSIM*, 2017年）の初演はエディンバラ・フェスティバルで行われ、この時「フリンジ・ファースト」賞を受賞している。イギリス国内だけではなく、イタリア、ドイツ、アイルランド、オランダ、フランス、スペイン、ベルギーなどのヨーロッパ各地、オーストラリア、ペルー、チリ、アメリカ、カナダ、韓国、中国など世界各地を飛び回っている。

本作は、これまでのスレイマンブールの作品とは形

式の上で異なる点が認められる。まず、作者本人が出演することである。タイトルがファーストネーム「ナシーム」であることから、彼の存在が重要となると推測される。加えて、スレイマンブールの母語ペルシア語で演じられる初めての作品でもある。これまでの作品は国外で演じられることが前提であったため英語で書かれていた。プレスによれば「『母語のペルシア語で伝える』ことを主眼に執筆した」とあることから、この点も作品における核を担うだろう。

『ナシーム』が該当するかはまだわからないが（この時点で筆者関は本作を未見である）、スレイマンブールの作品に共通して見いだせるのは、未知なるものへの可能性と対話の試みだと言える。

作品に対して無知である俳優を要求していることからわかるように、スレイマンブールの作品は「知らない」「わからない」ことの重要を説く。『ウサギ』は、見知らぬ国、都市、劇場においてやはり知らない人に演じられ、見られることを想定して書かれている。その「わからない」ということこそが、彼の作品に普遍性と自由を与え、いまや25を超える言語に翻訳され上演され続けているのである。

それ以上に徹底して行われているのは、俳優のみならず観客も含んだ参加者全員と作品との対話の試みである。『ナシーム』の初演に対して、イギリスの批評家リン・ガードナー（Lyn Gardner）は「ショーは、参加している全員がお互いを理解させようともがく、作家と俳優と観客の間の対話となる」と述べている。^{*2}実際に、（少なくとも）『ナシーム』より前の彼の作品は大部分がモノローグで構成されていながら、観客と俳優に作品と対話するよう求めるものとなっている。

しかし、いる場所も、名前も、性格も、ほとんど何も知らない相手と、対話など成立するのだろうか。奇しくもスレイマンブールと同世代であるイランの劇作家・演出家のアミール・レザ・コヘスタニ（Amir Reza Koohestani）は、「対話の終わり」という文章を『テアターホイテ』に寄せている。^{*3}その中で彼は、トランプ米

大統領によるイラン核合意からの離脱宣言を取り上げ、「私たちは話し合いや説得の時代にはもはやおらず、対話はない」と語っている。「対話の時代の終わりは、私たちが長いテーブルに共につこうとしていた時代の終わりである。そこは劇場が生まれた場である」。今や私たちは、対話を重ねるのではなく一方的にモノローグを聞かせられる時代にあると、コヘスタニは語る。

だが、そのような時代においてなお、あるいはそのような時代だからこそ、スレイマンブールは対話を試みる。それは、かつて国から出ることができなかった青年が、作品を通じて世界と出会うための手段、すなわち彼にとって未知の土地で、見知らぬ人と出会うためのものだったのである。だからその作品は、出会えることの喜びに満ちている。ユーモアと遊び心溢れる作品は、劇場がまさしく「遊びplay」の場であることを忘れず、参加者全員との対話を楽しもうとする。

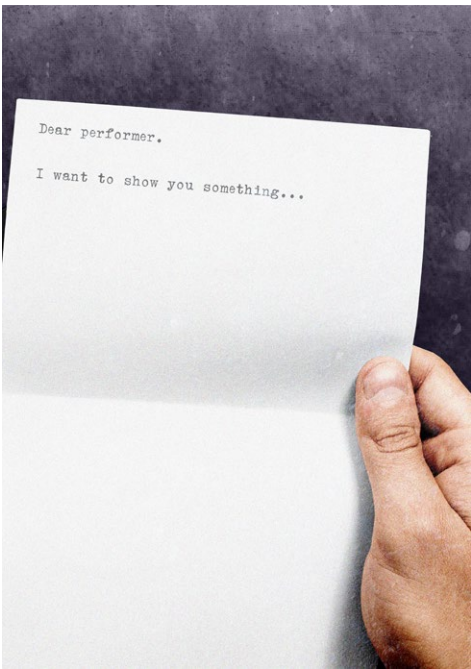
元々、見知らぬものと出会うことは恐ろしいことであろう。対話するどころか、常識や言葉を通じることができない。昨今、多様性を謳う他方で、自分とは違うものを文字通り「エイリアンalien（＝異なるもの）」としてみなし、排斥しようとする動きが散見される。しかしその中でスレイマンブールは出会うことを恐れない。「わからない」「知らない」からこそ、対話する機会が与えられるのである。

あなたがまだ上演前の客席に座っているなら、もう間もなく、舞台上に俳優が現れるだろう。彼は対話を恐れぬ者である。そしてあなたもまた、この作品の一部であり対話を担うものである。対話が成り立たない時代に、長いテーブルに再び共につこうとするものである。

※1. ナシーム・スレイマンブール『白いウサギ、赤いウサギ』關智子訳、『紛争地域から生まれた演劇6』、公益財団法人国際演劇協会日本センター、2017年、11頁。

※2. 'Nassim Review - language and life lessons from a vivid Iranian voice' The Guardian, 9 August 2017. (<https://www.theguardian.com/stage/2017/aug/09/nassim-soleimanpour-review-theatre-lyn-gardner-edinburgh>, 2018年10月29日確認。)

※3. 'Das Ende des Dialogs', Theater heute, Juni 2018. Seelze: Friedrich Verlag. なお翻訳にあたり、翻訳者山口侑紀氏のご助力をいただいたことをここに記し、謝辞とする。



©Studio Doug



Photo: David Monteith-Hodge



Photo: David Monteith-Hodge

關 智子（せき ともこ）

早稲田大学他非常勤講師、演劇博物館招聘研究員。専門は演劇学、戯曲理論、現代イギリス演劇。ナシーム・スレイマンブール『白いウサギ、赤いウサギ』翻訳。共著に『紛争地域から生まれた演劇』（ひつじ書房）。主な論文に「残酷な自嘲性と観客への攻撃——サラ・ケインの未出版モノログ作品に対する一考察」（『演劇研究』、第40号、演劇博物館）、「逆転と両義性のドラマトゥルギー——『白いウサギ、赤いウサギ』における登場人物と作者の地位をめぐって——」（『演劇学論集』、第66号、日本演劇学会）など。